

研究機関：広島大学

研究課題名 サルコペニアが膵頭十二指腸切除術の周術期に及ぼす影響-術前 In-Body を用いた骨格筋評価-

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋 信也

研究期間 2021年1月25日(倫理委員会承認後)～2022年12月31日

### 対象者

2018年1月～2020年6月までの期間に、広島大学病院消化器外科診療科にて膵頭十二指腸切除を施行した患者さん。

### 意義・目的

膵頭十二指腸切除(PD)は、消化器外科手術の中でも高侵襲かつ周術期合併症の比較的多い術式であり、その周術期管理ならびに術前の患者評価は極めて重要です。術前サルコペニアがPD周術期に及ぼす影響について評価することを本研究の目的としました。

### 方法

術前に In-Body を用いて、骨格筋係数(SMI)を解析し、SMI<7.0(男性)、<5.4(女性)をサルコペニアと定義しました。また、その他の患者因子、手術成績、膵液瘻などの術後合併症の評価を行い、サルコペニアのPD周術期に及ぼす影響を評価しました。周術期合併症は Clavien-Dindo 分類の GradeⅢ以上を合併症ありと評価しました。研究者が所属する消化器外科内の診療録等の過去の診療情報を用いて、専ら集計、簡単な統計処理を行う研究であり、研究に用いるデータは、研究対象者の基本情報(年齢、性別)、術前 In-Body 体組成、画像診断情報(CT検査)、手術関連情報(術式、手術時間、出血量等)、術後合併症情報、術前後の血液検査情報、術後経過情報 等(詳細は